

協同の心を継ぎ紡ぐ「組合製糸」と「集落営農」

協同組合教育のあり方に関する研究会を全中・家の光、各地の実践者が上伊那の地に集い「大転換期の協同組合教育をどうすすめるか」をテーマに意見交換をした（内容は後日開発機構HPに掲載予定）。

J A 上伊那 牛山喜文前専務理事（第 60 回農協人文化賞受賞）より実践報告いただいた。

牛山さんから「上伊那地域は、明治時代養蚕が盛んだったが、製糸会社の買い叩き・不当取引に悩まされていた農家が、産業組合法以前に自らを守る手段としてお金を出し合い製糸を開始。やがて、産組法のもとで組合製糸龍水社が誕生し、農家所得の向上に寄与した（詳しくは J A 上伊那 HP 参照ください）。養蚕・組合製糸は国際貿易の中で劣後し衰退したが、今日の協同の心を実践するのは上伊那全地域をカバーする 48（うち法人 44）集落営農だ。上伊那は共に助け合い自分たちの地域・農業は自ら守る協同の心が息づいている。」との報告がされた。

中世以降、団体的自治は日本社会の基層をなすものと言われるが、団体的自治の文化（協同の心）が、村社会・農業の営みを支えてきた。その実践が上伊那地域の組合製糸龍水社であり、今日の集落営農で、協同の心を継ぎ紡ぐものだ。協同組合理論を学ぶことはもちろん重要であるが、実践を通じた協同組合教育こそ日本社会の基層をなす協同の心を覚醒させることに繋がるとの確信を得た研究会であった。

（常務理事 浦野邦衛）

【地域開発部】

「きのこの生産・消費量の動向と、新たな販売方法の展開に向けて」

近年のきのこ価格は全国的に安値傾向にあり、農家の経営に影響を与えています。そこで、きのこの需給関係がどのような状況にあるのか、農林水産省『特用林産物生産統計調査』や、総務省『家計調査』をもとに調べてみました（表参照）。

まず生産量についてですが、2015 年は 36

万 3 千トンで、1985 年と比べると 2.8 倍に増えています。つぎに家計消費量をみると、15 年は 33 万 2 千トンで、85 年比で 3.2 倍となっており、家計消費の増加率 > 生産量の増加率となっています。それにもかかわらず、価格が低下しているということは、需給バランスが原因ではなく、生産方法の変化（効率化）や流通・販売面（特定の実需と結びついた安値競争）などの影響が大きいと推察されます。

また、別の角度からきのこの生産量と家計消費量の関係をみていきます。両者の差を加工・業務用需要量としてその割合を推計すると、85 年には 19.1%で、15 年には 8.3%になっています（輸出入や流通上のロスを除く）。他の品目の加工・業務用割合は、野菜で約 56%、果樹は約 45%となっているため、きのこは低い割合と言えます。

以上から、従来の家計消費向け主体の生産販売では価格を支えきれなくなっており、需要の拡大が見込まれる業務・加工用と組み合わせることで価格を安定させられる可能性があります。そこで当機構では、本年度、J A と協力して食品業者などにアンケート調査を行い、①需要先の発見、②規格・品質における加工適性の検討、③一次加工、流通形態の検討を行っていきます。

（研究員 坂知樹）

【表 きのこの需給動向】

年度	量(t)		85年比指数		割合(%)
	生産量	家計消費	生産量	家計消費	加工・業務用
1985	128,197	103,756	100.0	100.0	19.1
1995	228,293	179,947	178.1	173.4	21.2
2005	322,657	273,794	251.7	263.9	15.1
2015	362,538	332,341	282.8	320.3	8.3

新採用職員紹介・・・

このたび、地域開発部所属で働くことになりました、横井崇紘(よこいたかひろ)と申します。

大学時代は秋田大学で化学を学び、大学院より信州大学で分子生物学・食品科学を専攻してきました。プライベートでは料理と家庭菜園が趣味で、色々な料理に挑戦しています。

今後は工学系出身の強みを活かした切り口で、長野県農業の振興に貢献できるよう尽力していきます。特に近年話題となっている、I o TやA I等の情報科学と農業の融合のような新しい分野にも積極的に挑戦し、新たな柱を作っていきたいと思えます。

まだまだ不慣れでご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、皆様の温かいご指導のほどよろしくお願いいたします。



【人材銀行局】

長野県内のJ AやJ A関連会社を中心に、人材派遣・業務請負・職業紹介等、総合的な人材サービス事業に取り組んでいます。あなたの能力(ちから)を活かしてみませんか！(お仕事は、長野県内に限ります)

* **人材就業登録申込フォームを新設**しました。ホームページから入力いただくことで登録

ができるようになりました。是非一度 **《開発機構ホームページ》** をご覧下さい。

人材就業登録申込みフォームより一部分のみ抜粋

<登録者情報>

氏名*

ふりがな*

～ 平成30年度派遣等職員研修会の開催について ～
日時：11月20日(火) 予定です。職員の皆様には改めてご連絡いたします。

～編集後記～

戦時中の食糧難の時節に食べられる植物として、藜(あかざ)、猪子槌(いのこづち)、苧(ひゆ)滑苧(すべりひゆ)、白詰草(しろつめくさ)、姫女菀(ひめじょおん)、露草(つゆくさ)の7種類を「夏の七草」に選定したそうです。夏本番を迎え暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。月並みですが、皆様からのお問い合わせやご相談をお待ちしております。(Y)

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA 長野県ビル 11 階

TEL 026 (236) 3500 (代表) / FAX 026 (236) 3505